

令和 6 年度

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100774		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮6丁目6-10		
自己評価作成日	令和6年12月19日	評価結果市町村受理日	令和7年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年1月17日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月1～2回イベントを実施。 ・今年は隔月ないしは毎月ボランティアを招待して慰問活動を行っていただいていて、ご家族様を招待した。 ・待機者のご家族様への配慮も開始している。申し込んだだけで順番の問い合わせをいただく事もあり、次のご入居者様という意味でご家族様同様にイベントに参加する試みを運動会にて実施する事ができた。 ・季節ごとの地域行事には積極的に参加している。(本宮活動センターのお祭り) ・初めてとなるそよ風さんとの合同イベントを10/24に実施。協力関係を外部に向けて発信する事ができた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、付近にショッピングモールなどの大型店舗、病院などの医療機関、福祉・介護事業所などが立地している地域の中にあるものの、住宅地が割と多い閑静な地区のため買い物、散歩などの便が良い住環境にある。開設して3年目の2ユニットの事業所であり、職員はデイサービスなどの経験者が多く、グループホームの運営に対して既成概念や固定観念を持たずに、「何でも学ぼう、何でも知ろう」という姿勢で日々の業務に当たっている。事業所の理念である「私らしい今を、共に輝ける明日へ」を利用者の支援の中に展開して利用者の持てる力を発揮できるように取り組むとともに、近隣のグループホームと情報交換や意見交換を行いサービスの質向上に努めている。入居待機者に対しても事業所で開催する運動会に参加を呼びかけ、事業所の雰囲気を見てもらっているほか、焼き芋屋やアイスクリーム屋を事業所に呼んだ際には近隣の住民にも声をかけて地域との交流にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行っている。職員の入れ替わりもあるため、理念の周知は入社時など都度行っている。ご利用者様ご自身で出来る役割を考えながら、理念を基に施設の環境作りや行事の企画を行っている。	事業所の理念「私らしい今を、ともに輝く明日へ」は、開設時に職員全員で話し合って作ったものであり、玄関等に掲示している。入居時に家族から利用者の普段の様子を聞き、その情報をもとに「私らしく」今できることをする環境作りに努めている。カンファレンスのほか、イベント企画の際にも「その人らしさ、私らしさ」を職員が話し合い、利用者の自立につながる支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事へ希望のお客様をお連れして参加したり、施設内の行事では外部・個人・団体を招き開催に至る事もあります。また、近隣の施設の方を招いたり、系列の施設と合同で行事へ参加する事もある。	地域の自治会に加入し、「ツクイ便り」という事業所のお知らせを回覧板に挟んでもらっているほか、事業所の外の掲示板にも掲示している。地域の活動センターのお祭りに参加したり、事業所周辺のゴミ拾いを利用者と一緒にしたり、事業所に焼き芋屋を呼んで地域の人の参加を促したりして、地域との交流を深めるよう努めている。前回の外部評価後に目標達成計画を立て、地域行事への参加の機会を増やすことに取り組んでいるが、目標達成には十分ではないとしている。	活動センターのお祭りに参加したり、事業所周辺のゴミ拾いを行ったりして、地域とのつきあいに努めておりますが、引き続き、地域行事に参加したり、地域住民と日常的に交流する機会を増やしていくことを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館で行っているお祭りへの参加や作品展への出品など地域行事へ積極的に参加している。その他、入居相談にいらしたときに単なる入居ではなく在宅サービスを紹介するなど、待機者へは連携しているショートステイを紹介することなどご家族へのアドバイスを伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度開催している。その中で話し合った内容を次月の請求書と共にご家族様へ開示。ユニットリーダーにも内容を確認してもらったうえで、職員へも伝達し改善に活かしている。	会議には、市担当課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族が出席し、2ヵ月ごとに対面で開催している。家族の参加は特定の家族になりがちであるが、会議録を出席しない家族にも郵送するとともに、返信用封筒と様式を付けて意見・要望を提出してもらっている。出された意見・要望については、次回の運営推進会議に報告し、話し合いを行っている。職員にも会議録を回覧し、既読の確認印を付して情報を共有している。	運営推進会議のメンバーに知見者として地域の民生委員が参加していますが、災害時の支援などを含め幅広く地域との協力関係を築いていくためにも、自治会等から地域住民の代表にも参加してもらうことが望まれます。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へは毎回参加していただいている。また運営に関して不明点がある場合にはその都度問い合わせをして回答いただけるようにしている。	市の担当課職員が毎回運営推進会議に参加しており、会議の場で意見や提案をもらっているほか、必要の都度問い合わせをしており、顔が見える良好な関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を年二回実施して内容を理解する努力をしている。また、身体拘束廃止について宣言の資料も活用している。	身体拘束廃止の指針を会社全体で作成しており、事業所において2ヵ月ごとに身体拘束廃止推進委員会を開催し、事例検討や「身体拘束廃止いって宣言」を活用した勉強会を実施するとともに、年に2回会社のオンライン研修で理解促進に努めている。事業所内の5ヵ所に監視カメラを設置し、職員のケアの様子を確認できるようにしている。スピーチロックが散見される場合は、月ごとにテーマを掲示し職員の意識啓発を図っている。職員の心身にゆとりがなくなりそうなときは、担当者の交替を検討するなど不適切な言動にならないように取り組んでいる。また、アンガーマネジメント研修や虐待の芽チェックリストで2ヵ月ごとにセルフチェックも行っている。	玄関ドアは自動ロックになっているので、利用者自身で開けられない場合、利用者が外に出たい様子が見られるときは、職員が開錠するなど、利用者の意思を尊重した対応を速やかに行うことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を年二回実施。虐待はしてはいけないという意識を高めている。虐待防止についてテーマを決めて掲示しているのも意識付けになっている。カメラチェックを管理者、本社でも定期的実施している。 適正検査を実施。結果について気になる職員には面談をしている。また二か月に一度面談を実施するようにしている。時間が取れない時には短時間でも管理者が会話を心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方に定期的にご連絡をしている。後見人への理解が出来ない人に対しては情報提供してご本人に配慮しながら対応している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて納得していただけるように心がけている。また必ずご入居されるユニット内を見学してもらい疑問点がないか確認している。入居の継続が難しくご退去の事案が発生しそうな方には時間を設けて説明をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で集約した意見をユニットリーダーへ伝達をしてユニット内で理解を深めていたり、タブレット端末での記録を等して共有し理解を深めている。	毎月家族あてに利用者の様子やイベントの様子を伝える「ツクイ便り」を郵送し、意見・要望を出しやすいようにしている。また、2ヵ月ごとに運営推進会議の会議録を送付する際、意見を記載する用紙と返信用封筒を同封して、家族から意見・要望を収集するよう努めている。利用者との話しの中で出る要望は食事に関することが多い。利用者、家族から出された意見や要望は、タブレット端末に入力し職員間で共有し、反映させた後は実施済みのチェックを付けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットリーダーに意見集約をお願いしている。また、面談でも直接意見を聞くようにしている。	ユニットリーダーが毎月のユニット会議で職員の意見や提案を聞き、集約した意見等を管理者がリーダー会議でユニットリーダーから聞いているほか、2ヵ月ごとに管理者が職員との面談で意見等を直接聞く機会を作っている。出された意見等は運営に反映させるようにしており、例えば利用者の食事形態の検討や介護度が高い場合の勤務時間の変更などについての意見等があったときに、随時これらの意見等を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を実施している。社員は目標管理シートを入力をして自分の取り組みが振り返る様になっている。またパート職員には役割をもっといただけるようにしている。 状況の確認はユニットリーダーや管理者も相談に乗る様にして無理なく勧められるようにフォローしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法定研修の受講の促し、参考となる資料があるがあればユニット会議等で共有できるようにリーダー経由で職員に渡すようにしている。また認知症実践者研修への参加の促しや外部の研修にも参加できるように働きかけている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苦情解決情報交換会や包括支援センターが実施する研修、また当社の東北圏のグループホームで実施している意見交換会へ参加しサービスの質の向上へ努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の症状の捉え方でご家族も対応に困る場面もあり、都度お声掛けをして相談に乗る様にし、ご本人にも話を伺い解決策を見出す様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様へご入居に関する不安や要望などを聞き取り、必要に応じてアドバイスを「行い、ご家族の気持ちに寄り添うとともに不安の解消に努めている。また、入居後の不安が強いご家族様へは入居後のご本人の様子を電話等でお伝えする事もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	極力申込時や前に見学に来ていただいている。そして何に困っているか、どういう生活を本人にしてみらいたいかなどの聞き取りを行っている。満床の場合は意向や状況を確認しつつ、同系列のショートステイ等のご利用を入居までの代替えとして提案させていただいて、その時に最善となるサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のスキルを大事にして状況に応じた声掛けして一軒の家にすんでいるという風に話をしていく。当方に気を使って必要な発現ができないということがないように働きかけている。 当番表を作成して食器洗い当への取り組み、また食器棚へ写真をはり簡単那サポートで片付けが出来るような仕組み作りをしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご利用者様のご様子を書面にてご家族様へ報告している。 必要に応じて電話で報告して必要なものを持参いただいたり、面会を促している。今年度はご家族様へ施設行事の招待やご家族様へ向けて、ご利用者様に手紙を書いていただき、ご家族様との繋がりの一助になればとの思いで企画した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が訪ねてきたいと話されたときには、地図を提供したり、お手紙が届いたときには直接お渡しする様にしている。手紙をご本人が送りたいとお話が有れば、はがきの購入やポストへの投函を行っている。お電話が着たときはできる限りつないでいる。	知人や家族が利用者に会いに訪れたときは、いつでも面会してもらっている。馴染みの人に会いたいという利用者の希望があるときは、家族の協力を得て叶えるようにしており、例えば病院の帰りに毎月いこの所に寄っている利用者もいる。手紙や電話での連絡を取り持つなど、家族、知人、友人等の継続的な関係性が維持できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の表情や体調の変化に注意をして、必要に応じて声掛けを行い円滑な関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入院が継続しご退去の方向となっても限りなくご相談頂けるようにご家族様にはお声掛けをしている。次の行先についても困る事がないように関係期間との連携をしている。ご逝去の場合は当方の対応について乾燥をうかがうなどして寄り添うことを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と別室で管理者を含めお話している。必要に応じてご家族とも情報を共有して、何が一番望んでいることなのかを検討している。	普段から日々のケアの中での会話や雑談をしながら利用者の思いや意向を把握するようにしている。ほとんどの利用者は自身の思いや意向を話すことができ、外に行きたいという希望が多いので、よく散歩や買い物に出かけるようにしている。自らの意思を伝えることが困難な利用者もいるが、本人が気に入っている音楽をかけるなどして過ごすようにしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時に対応していたケアマネージャーより情報をいただいている。その後訪問してご家族に直接聞く。また入居されてから楽しみだったことを伺うなど会話からくみ取る様にしている。行動で確認したいことがある場合もご家族様にすぐ聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理強いせず、ご入居されたらご本人がどのように人と関わるかをよく観察する。各職員と情報を共有してご本人のペースを把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを実施しユニット内で情報をまとめ計画作成担当者と共有している。またご家族様に情報共有して面会に来所した時に直接伺ったり、必要に応じて電話にてご意見がないあか伺っている。	職員が毎月のミーティングで利用者の身体の変化や日常の様子を話し合い、必要なケアの見直しについて意見を出し合っている。ミーティングでの意見のほか、主治医や訪問看護師からの意見もタブレット端末に入力しておき、計画作成担当者が介護計画の見直しに活かしている。介護計画は家族に郵送し確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末の記録を活用した情報の共有や口頭での申し送り。また重要なものについては強調させるなど、見開いてすぐに確認が必要な物や説明が必要な伝達は申し送り専用のノートへ記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご自宅への帰宅願望、買い物などご家族と協力しながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんや地域広報から情報を得て、地域での作品展示会や行事への参加。必要に応じて地域包括センターからアドバイスをいただきながら対応している。また、地域包括や地域の居宅介護支援事業所のケアマネージャーを招き認知症について考える事を趣旨にお客様との行事を開催した。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	ご家族の承諾後に協力医への切り替え、小坂内 科消化器科クリニック5名。真山池田内科医院2 名、かつら内科医院2名の利用者様に対して、ド クターの施設への往診を依頼している。もちろん 今まで通りの病院へ通い続けたいご利用者様に たいしてはご家族様の対応で通院していただい ている。	入居時に利用者、家族から要望を聞き、ほとんどの 利用者は事業所の協力医をかかりつけ医として いる。協力医による訪問診療と訪問看護ス テーションの看護師の訪問看護により、適切な医 療や必要な助言を得るようにしている。入居前か らのかかりつけ医を希望する利用者については 家族の対応で受診してもらっており、受診結果の 情報を共有している。介護タクシーを利用して人 工透析に通院している利用者もあり、多くの医療 機関と連携して医療支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	事前に情報をまとめ、おおよそ週二回の訪問に 合わせてスムーズに報告しアドバイスを受けれる ように努めている。必要に応じて訪問のタイミ ング以外も電話で相談を行い適切な処置ができる ように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、又、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	必要に応じて医療連携室やソーシャルワーカー と連絡を取り合い、入院時の情報提供や退院後 の連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	お客様の状態を確認しながら、ご家族へ情報提 供を行い、協力医より指示を受けたり、アドバイ スをいただいている。	「重度化した場合の対応に係る指針(看取りの指 針を含む)」を定め、入居開始時に利用者・家族 に説明し、住み慣れたグループホームで最期ま で安心して穏やかに生活が営めるよう支援に努 めている。利用者の身体状況が変化するたびに 家族の意向を確認し対応をしている。これまで3 名の利用者の看取りを行い、看取り後に家族の 思いを職員に伝え、振り返りを行っている。事業 所での生活の継続が困難になった場合は医療 機関や特別養護老人ホーム等での療養に向けた 支援を検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行い、実践力を身に付けている	研修として消防署にて実技研修を受け、実際に 発生した例を参考に実践できるようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施。どのような手順であればよいか確認している。また、BCP計画書を7月に更新し、それを基に机上訓練を実施し非常時に備えている。	火災や地震を想定して避難訓練を年2回実施している。夜間を想定した訓練では、職員連絡網に従っての呼び出しや通報訓練を行っている。今年度、業務継続計画(BCP)を見直し、机上訓練も実施している。備蓄食品や飲料水は3日分確保しているほか、発電機を2台準備している。災害時には、系列の他の事業所の職員の協力をもられるようにしている。	災害時に系列の事業所の職員だけでなく地域の方々の協力を得ることができる体制構築に向けて、運営推進会議で話し合ったり、地域の方々の協力を得た避難訓練の実施を検討するよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人となりをくみとりながら、ご本人への声掛けや確認を行いながら支援している。	利用者の人となりを理解して、上から目線の声かけにならないようにするなど敬意をもった話しかけや、一人一人の思いを尊重した対応に心がけている。トイレ介助の際にドアを半分開けたままの介助をしていないか、入浴の際にプライバシーが確保できているかなど、2ヵ月ごとにセルフチェックを行っている。また、接遇やプライバシー確保について、年に1回会社のオンライン研修を受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度、お声掛けにて働きかけている。手作業など食事の嗜好も時々要望を伺いながら、自己決定に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人に合わせて声掛けをしてお過ごしいただいている。その時の気分を伺い延長するなどして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝や入浴後の着替えについてご本人へ確認しながら洋服を選んでいただいている。季節毎にご本人へ確認しながら不足があればご家族様へ協力いただいたり、買い物にでかけたりしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんがみている目の前で準備をしている。好みを伺いながら対応。片付けもご本人のペースを大切に声掛けをしている。	献立は本社で作成し、食材は本社集中センターから送られてきており、調理は各ユニットの職員が交代で行っている。利用者の好みを取り入れたり、季節の食材などを用いたりして、本社の献立をアレンジすることもあり、B級グルメの日やそば打ちの日なども設けている。今年は19日が味噌の日となっていて、各地の味噌を味わって楽しんでいる。テーブルやトレイの上にきれいなランチョンマットを敷いたりして、雰囲気作りもしている。利用者は、主に食器拭きなどの後片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	過度な庄司形態の変更はしないように、カンファレンスを通して、食事形態や水分トロミの設定を行っている。体重のいちじるしい増減やその傾向がある場合は栄養士や協力医へ相談して、栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の状態に応じてこう描けを行い、介助や物品のセッティングをおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本ご本人の脅威当に合わせて介助をしている。ご本人から申し出やトイレに向かわれるご様子がない場合は時間を見計らって声掛けを行っている。	利用者の多くは自立してトイレでの排泄ができており、布パンツやリハビリパンツを使用している。自立していてもトイレに行く様子が見られない場合は声をかけ誘導するときもある。オムツを使用している利用者は1名いるが、排便時はトイレ誘導をしている。夜間にポータブルトイレを使用している利用者は2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を実施している。腹部を動かす運動をしている。過介入となり、尊厳に配慮した把握が難しいご利用者様へは、看護師に依頼してお腹の張りや動きを確認し、下剤を調整しながら提供している。便の状態を協力医へ共有して薬の処方をしていただいている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の入浴時間に配慮して日程を決定。その日の気分によっては日程をずらして対応している。	最低でも週2回、午後1時から午後5時までの時間帯の入浴が基本になっており、入浴時間は利用者に合わせて決めている。体が汚れたときには随時入浴でき、介助の必要のない場合は夕方入浴も可能となっている。極力同性介助に努めている。冬至には季節を感じることができるよう柚子湯を楽しんだりしている。また、入浴中にゆったりとなり歌を口ずさむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠が見られた場合などは声掛けを行い布団での静養を勧めたり、足浴がしたいとお話があれば対応できるように準備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医より薬の変更などが有る時は申し送りで情報を共有して、薬の情報は職員が確認できるように事務所書庫で閲覧出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の片づけなどは、ご本人の状態に配慮しつつご利用者を交えて当番表を作成している。ご利用者様の嗜好に合わせた余暇の手作業や居室の掃除などご本人を交えて実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望によって、職員やご家族の協力をいただいて対応している。専門医への受診は緊急を要する場合を覗いてご家族様へお願いしている。	利用者は、職員と一緒に事業所周辺の散歩を日常的に行っている。また、職員と一緒にゴミ出しに外に出たり、事業所周辺のゴミ拾いを行っている。昨年10月には同業のグループホームと合同でプロレスの試合の観戦に出かけている。そのほかにも、季節ごとのドライブや近所のコンビニに買い物に出かけたりもしている。前回の外部評価後に目標達成計画を立て、特定の利用者だけが行事に参加するのではなく、多くの利用者が参加できる行事を企画することとし、春の花見や秋の紅葉狩りなどを企画し実施した。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム 輝

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ご本人がお金を所持していない。欲しいものなど希望があった時は、ご本人やご家族、後見人へ確認して立替で購入したり、体調が安定している時はお連れして対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用は可能としている。ご本人が連絡したいと話されてたときは事業所から繋ぐこともある。また、家族や親類、ご友人への連絡は事前にご家族へ確認を行い協力いただいて繋ぐ事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者同士の相性を考えて席を固定している。また時々のご利用者様の精神状態によっても配席を変更している。また、ご利用者様個人個人の居室や共用部分は照明の設定や冷暖房の調整をこまめに行っている。奇跡に応じた装飾や季節に応じて時には食堂の窓を開放して外気を入れることもある。	共用の空間である居間・食堂室は、温度が適切に設定され、照明も目に優しい色に調整されており、明るく、清潔でゆったりとくつろげる場所となっている。利用者と職員と一緒に作成した装飾で飾られている。季節ごとに飾り付けを変え、行事にあった飾り付けも行われている。食事の際も季節に合わせたランチョンマットを敷き、利用者に季節を感じてもらえるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配席を工夫している。ご利用者の皆様がテレビを観れる向きとしている。 また、相性や性格を見極めながら配席している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、主にご家族様の協力をいただいている。在宅でご利用されていた棚や机など、居住に支障がない程度になじみある生活感のある居室となるようにご持参頂けるようにしている。入居後もご本人の話を伺いながら配置の変更や物品の購入をご家族様の協力を得ながら整備している。	居室には、リクライニングベッド、クローゼット、ナースコール、エアコンが備え付けられ、調光調色できる照明となっている。全ての居室のベッドには離床センサーが設置されており、利用者の危険回避や自立支援に活用している。利用者は、位牌やテレビ、仕事で使っていたトルソーなど思い入れのある物を居室に持ち込んでいる。掃除は可能な限り利用者も職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンなどご利用者様が携わる部分については、備品へ名称を貼り付けたり、写真を貼り付けてわかりやすくしている。また導線へは不必要な物は置かない様にしている。		